

令和4年度北上市議会新清会活動報告書

期 日	内 容	場 所
10月18日(火)	<p>栃木県宇都宮市 テーマ：「自転車のまち宇都宮」の推進に向けた 取組みについて 説明者：宇都宮市建設部道路建設課職員</p> <hr/> <p>藤本 金樹 菊池 勝 昆野 将之 藤原 常雄 居駒 勉</p>	<p>栃木県宇都宮市 宇都宮市役所</p>
10月19日(水) ～20日(木)	<p>全国市議会議長会研究フォーラム</p> <p>(10月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「コロナ後の地域経済」 富山 和彦（株式会社 経営共創基盤グループ会長 株式会社 日本共創プラットフォーム 代表取締役社長） ・パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の現状・ 課題と将来の可能性」 <p>コーディネーター 人羅 格（毎日新聞社論説委員）</p> <p>パネリスト 岩崎 尚子（早稲田大学電子政府・自治体研究所教授） 牧原 出（東京大学先端科学技術研究センター教授） 湯浅 壘道（明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科教授）</p> <p>寺沢さゆり（長野市議会議長）</p> <p>(10月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題討議「地方議会のデジタル化の取組報告」 <p>コーディネーター 谷口 尚子（慶応義塾大学大学院システムデザイン・ マネジメント研究科教授）</p> <p>パネリスト 金澤 克仁（取手市議会議長） 板津 博之（可児市議会議長） 林 晴信（西脇市議会議長）</p> <hr/> <p>藤本 金樹 菊池 勝 昆野 将之 藤原 常雄 居駒 勉</p>	<p>長野県 長野市 ホクト文化ホール</p>

研 修 報 告 書

北上市議会議長 様

北上市議会 新清会
会長 藤本 金樹

次の 研修 について結果を報告します。

期間（期日）	令和4年10月18日（火）
視察先 視察内容 または 研修事項	栃木県宇都宮市 テーマ：「自転車のまち宇都宮」の推進に向けた取組みについて 説明者：宇都宮市建設部道路建設課職員
参加者	藤本 金樹 昆野 将之 菊池 勝 藤原 常雄 居駒 勉
[内容及び所感]	<p>1 自転車を取り巻く環境が整っている 自転車を活用した様々な取組みをするうえで、宇都宮市の環境が適していた点は大事なポイントであると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none">・市街地を中心に平坦地が広がっている・雨量が少ない・冬季の日照時間が長い・幹線道路が整備されている <p>逆に北上市に当てはめると、冬季間があるうえ、上記の内容はほとんど当たっていないことが分かり、当市のこれからの施策は環境面をどう克服していくかがカギとなりそうである。</p> <p>2 イベントの力を最大限に利用している 大きな自転車レースの開催を通し、自転車のまちという市民を巻き込んだ取組みは様々な自転車に対する施策を行ううえでも市全体で協力できる気概の醸成になっていると感じた。</p> <p>3 PDCAサイクルが機能している 宇都宮市の自転車への取組みは早く、初めの計画期間は平成23年度から10年間進められ、現在は2期目にあたる。その際、年度毎にも見直しがあると思うが前期10年をしっかりと検証し2期目の計画が反省を活かし進められている。この点は、北上市の総合計画でも同様であり。継続性と、社会情勢などの変化をしっかりとらえ進めていくものと思う。</p> <p>4 計画の推進は工夫が必要 様々なやり方があると思うが、宇都宮市では、道路建設課、観光交流課、都市魅力創造課の各部署が参画している点は、各部署間は連携し進められていると思うが、もっと効率的に進めるためにはプロジェクト化した組織で進</p>

めるのもよいと感じた。

【居駒勉】

今回の研修会で最も印象的だったのは、自転車を活用した経済・地域の活性化に向けたスポーツ都市戦略の凄さである。アジア最高峰の自転車国際大会「ジャパンカップサイクルロードレース」3日間で約14万人の来場者と約28億円の経済波及効果を創出。一般参加型の「宇都宮シンクロス」には約2.5万人が来場。

「宇都宮プリッツェン」国内最高峰のシリーズ戦、レース活動と併せて自転車安全教室やサイクルイベントなど様々な地域貢献活動を10年間で200回実施しており、

そのほか都市ブランド力の向上や経済地域の活性化のほか青少年の健全育成といった効果を創出している（経済的効果・社会的効果・教育的効果）。

北上市は自転車活用推進計画や条例は素晴らしいと思うが、まず「街の中を自転車で安全・快適に走行することが出来る（道路整備）まちづくり」を早急に必要ながある。また、計画目標の「安全・安心」「スポーツ・観光」「道路・まちづくり」についても具体的に取組みなければならないと思った。

【藤原常雄】

私は、「観光振興」の視点で、宇都宮市観光交流課による、宇都宮らしさを追求した観光資源の磨き上げ強化等の取り組みから「自転車のまち」としての魅力向上への取り組みに大変興味を持っておりました。宇都宮市の強みである、アジア最高峰の自転車の国際大会「ジャパンカップサイクルロードレース」。一般参加型の「シンクロクロスシリーズ」等、イベントの開催や、宇都宮市を本拠地とする「宇都宮プレッツェン」。キラーコンテンツとして「餃子」等の魅力ある観光資源を活かし、ストーリー性を持たせ取組みられておりました。特にも、周遊促進のための、サイクル周遊チケット「ツールド大谷」の販売があり、観光資源を活かしながらカフェ・飲食店を巡るとお得な割引チケットがもらえる工夫は、大変参考となりました。

当市でもこれまで「夏油高原ヒルクライム」や新城ロードを活用した企画の実施を行ってきましたが、選手以外の一般の市民はボランティアでの参加でしたが、それ以外の参加方法として、自転車愛好家ではない一般の市民、特にも家族で自転車を楽しみながら参加できる機会づくりとしての「ツーリズムの推進」も、新たな価値感や拡がりを作るため必要ではないかと考えます。

【菊池 勝】

素晴らしいと感じたのは市民を巻き込んで国際大会を開催していて、大会の来場者と経済効果が大きいこと。

土地柄で雪が降らない、雨が少ない、平らな場所が多いなど、自転車の利用がしやすい。とのこと。

北上も夏油ヒルクライムや、新城ロードがあるが、市民の認知は大きくない。もっと自転車を前面に出すのであれば、市民を巻き込む事を考えていかなければならないと思った。

【昆野将之】

自転車を利用した地域づくりとした取り組みは「自転車のまち推進計画」が平成23年から令和2年までの10年間行ってきて、スポーツ・通勤・地域活性化・健康・経済等広く関連した取り組みが明記され、多くの市民が参加出来ている様に見受けられた。

特にも、アジア最高峰の自転車の国際大会「ジャパンカップサイクルロードレース」や一般参加型の「シンクロクロスシリーズ」など世界に名の知れたイベントを開催し経済波及効果は宇都宮市にとっては計り知れないもので宇都宮市の強みではないでしょうか？

ただ今後の高齢化を考えると地域内交通及び地域間交通の主要交通手段として自転車の活用も計画の中にあるが、自転車に乗れる時は脱炭素社会に取り組めることから賛同者も増えるものと思うが、高齢化が今後も進むのであれば、それ以降については他の手段も考えていく事が必要だと思われる。

【藤本金樹】

研修報告書

北上市議会議長 様

北上市議会 新清会
会長 藤本 金樹

次の 研修 について結果を報告します。

期間（期日）	令和4年10月19日（水）～20日（木）
視察先 視察内容 または 研修事項	<p>全国市議会議長会研究フォーラム （10月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演「コロナ後の地域経済」 富山 和彦（株式会社 経営共創基盤グループ会長） （株式会社 日本共創プラットフォーム代表取締役社長） ・ パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の意義と課題」 コーディネーター 人羅 格（朝日新聞論説委員） パネリスト 岩崎 尚子（早稲田大学電子政府・自治体研究所教授） 牧原 出（東京大学先端科学技術研究センター教授） 湯浅 壘道（明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授） 寺沢 さゆり（長野市議会議長） <p>（10月20日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題討議「地方議会のデジタル化の取組報告」 コーディネーター 谷口 尚子（慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授） ・ 事例報告者 取手市、可児市、西脇市
参加者	<p>藤本 金樹 昆野 将之 菊池 勝 藤原 常雄 居駒 勉</p>
[内容及び所感]	<p>1 基調講演「コロナ後の地域経済」</p> <p>過去の経済危機を経て、現在のコロナ禍そしてコロナ後の経済、特に地方はチャンスとしてとらえ知恵を絞った施策が必要と感じた。</p> <p>首都圏、東京は地方より出生率が低く GDP も地方のほうが良い、例えば山形県、農林水産業で稼いでいる。</p> <p>また、経済で東京やトヨタが稼いでいるのは約30%で、ほかの70%は地方が稼いでいる。</p>

	<p>現状を知ると、地域、地域の宝（特産物）を改めて掘り起こし付加価値をつけイノベーションを進めて行ければ、地方の時代が来るかもしれない。それには、やはり前段でも述べたが知恵を絞ることが大事である。</p> <p>2 パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」</p>
	<p>全国の例を見ても、デジタル化と言えばオンラインでの会議を実施したとかタブレット導入という点が強調されていた。</p> <p>北上市では、その時点は過ぎているので、他の議会で進んでいないのであれば、良い事例に習い真似をすればよいと思う。</p> <p>当市として考えるべきは、行政全体の DX でその中で議会の機能も入れ込みトータルでの完成を検討すべきと感じた。</p> <p>3 課題討議「地方議会のデジタル化の取り組み報告」</p> <p>パネルディスカッションと同じで、議会での成功事例の紹介が主だったが、2で述べた所感と同じになる。</p> <p>大事な点は、デジタル化、AIなどを導入し充実した福祉や安心できる住民生活をどう実現するかであると思う。</p> <p>いろいろな会議、議会報告会、総会などリモートで会議をすれば良いのではなく、私は今回のコロナの感染状況や災害時などに行政の仕組みや議会機能が停止しない準備と、緊急時にしっかりと運用ができる日ごろの訓練（定期的実施）が必要と考える。</p> <p style="text-align: right;">【居駒勉】</p> <p>第1日目 第1部 基調講演「コロナ後の地域経済」、第2部 パネルディスカッション「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」。</p> <p>第2日目 第3部 課題討議「地方議会のデジタル化の取組報告」の中で1番興味を持てたのは「地方議会のデジタル化の取組報告」であり、取手市議会、可児市議会、西脇市議会より、ICT活用、DXの取組について説明があり興味を持って聞くことが出来て良かった。</p> <p>特にオンラインによる議会報告会・委員会・視察・研修・議会と語る会・グループ意見交換などについて説明されたが、当市議会とあまり変わらないが一部参考になった。</p> <p>西脇市議会ではタブレットよりもノートパソコン使用者が多い（制約が多いため）。</p> <p>取手市議会ではオンライン本会議（議決）が出来るよう地方自治法改正を求める意見書を提出したそうです。</p> <p>当市議議会も同調（賛同）したほうが良いと思いました。</p> <p style="text-align: right;">【藤原常雄】</p> <p>特にも議会のデジタル化について当議会でも行って来た経緯から「デジタル化の意義」について、議会のデジタル化の意義については、平時、災害時、コロナ</p>

禍に関わらず、議会機能を十分に発揮できることであり、住民とのコミュニケーション確保につなげること。これらを、オンライン化で実現するため、危機に強い議会の構築、デジタルインクルージョンの実現（デジタルインクルージョンとは、誰一人取り残すことなく生活に関わるあらゆるデジタルテクノロジーを安全かつ自由に活用できるようにすること）、そして、議会に何らかの制約で出席できない議員をできるだけ減らし、民意を反省させることであります。デジタル化の検討については、本会議等現時点で法令の制限や制約があるものや、関連事務等検討が必要なもの、一方では、デジタル化することにより実務上メリットが大きいもの（意見聴取や事前協議等）が考えられます。セキュリティの観点から、本人確認やなりすましの防止、通信障害、機器の故障等が考えられます。また、個人情報保護も大切であります。検討すべきことは多いように感じますが、議会機能を十分に発揮できるツールとして市民とのコミュニケーションツールとして、コロナ禍に関らずその意義について考え、実践できるところから活動の見直しを図るべきと考えます。当市議会総務常任委員では、初めてオンライン視察を行い、各委員会においてもオンライン開催を行うなど議会としてコロナ禍においても、議会活動を停滞させることなく、新たな取組を実践して参りました。更に踏み込んだ事例として、岐阜県可児市、可児市議会議長板津博之氏より、コロナ禍における議会報告会の開催事例が紹介されており、「完全オンラインの議会報告会」が行われておりました。当議会においても、議会と市民との双方向でのオンラインツールの活用や、それに伴う取組等、これまでの経験を活かした議会機能の更なる向上や活動の見える化による、議会の魅力にもつなげて行きたいと考えます。

【菊池 勝】

事例発表でタブレット導入、オンライン会議など導入した話だったが、北上市議会は既に導入済みの話なので、あまり参考にはならなかったが、話を聞いていて議会のDX化は進めたほうが良いと思った。

北上市議会もまだまだ、改善できる場所はあると思うし、もう少しDXを進めれば、研究フォーラムで事例発表できるレベルになると思う。

【昆野将之】

北上市議会はタブレット端末を導入し、議会において普通に活用している現状では、他議会においてもタブレットの普及が進んでいるものと考えておりましたが、今回のフォーラムの中で普及状況が示され想像以上に進んでいない状況と公表されておりました。

そのため、第一日目のパネルディスカッションは議会のDX推進についての内容となっており再確認の場として受け止めてまいりました。

二日目は、今後の利用についてであり、タブレットやパソコンは紙と鉛筆の変わりでの様に利用していくが大事と再度確認でき、又その利用で市民との繋がりを多く持つ利用の仕方を考える事が必要と思われる。

	<p>其の利用については未だこれだと言われる事例が出されていなく、今後の取り組み課題がはっきりしただけでもフォーラムに参加した意義はあった。</p>
--	--

【藤本金樹】